

# マテリアリティ(重要課題)

今般、「社業の発展を通じて社会に貢献する」という経営理念のもと、社会とともに持続的に成長し企業価値を向上させるためのマテリアリティ(重要課題)を特定しました。

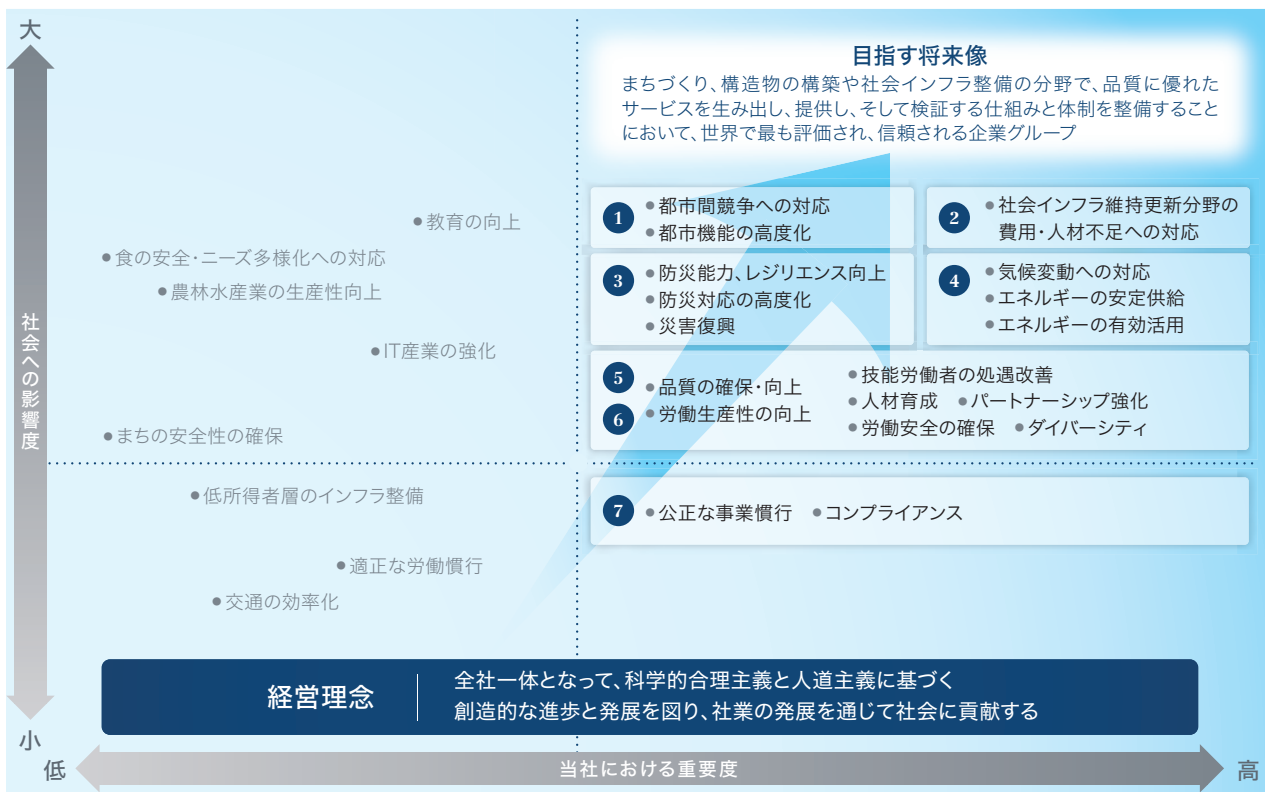
鹿島グループは、SDGsへの貢献をはじめとした社会課題の解決に積極的に取り組むことを通じて、まちづくり、建造物の

構築や社会インフラの整備の分野で、品質に優れたサービスを生み出し、提供し、そして検証する仕組みと体制を整備することにおいて、世界で最も評価され、信頼される企業グループを目指します。

## マテリアリティ特定のプロセス

- 1 社内各部署において自部署の事業・中期経営計画の施策などの取組みと、SDGsの17の目標との関連性を確認
- 2 各部署から提出されたSDGsに関連する事業・取組みを集約・整理し、課題を抽出
- 3 「社会への影響度」(縦軸)と「当社における重要度」(横軸)によりプロット
- 4 部署横断の会議体による検討、外部有識者との意見交換
- 5 経営会議による審議・決定

### 課題のマッピング



上図における「1～7 社会への影響度が大きく、当社における重要度が高い課題」について内容を統合・再整理し言語化を行い、当社グループのマテリアリティとして事業を通じて貢献する4項目、事業継続の基盤となる3項目の計7項目に取りまとめました。

## マテリアリティ(重要課題)と関連するSDGs項目

下の図は、7つのマテリアリティについて、当社グループの貢献と特に深く関連するSDGs項目を合わせて表現したものです。



## マテリアリティ(重要課題)の解説

### マッピングされた課題

### 各マテリアリティに対する取組みの方向性

<p>1</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>都市間競争への対応</li> <li>都市機能の高度化</li> </ul>		<p>1. 新たなニーズに応える 機能的な都市・産業基盤の構築</p>
<p>2</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>社会インフラ維持更新分野の費用・人材不足への対応</li> </ul>	<p>社会</p>	<p>2. 長く使い続けられる 社会インフラの追求</p>
<p>3</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>防災能力・レジリエンス向上</li> <li>防災対応の高度化</li> <li>災害復興</li> </ul>		<p>3. 安全・安心を支える防災技術・サービスの提供</p>
<p>4</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>気候変動への対応</li> <li>エネルギーの安定供給</li> <li>エネルギーの有効活用</li> </ul>	<p>環境</p>	<p>4. 低炭素社会移行への積極的な貢献</p>
<p>5</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>品質の確保・向上</li> <li>労働生産性の向上</li> <li>技能労働者の処遇改善</li> <li>人材育成</li> <li>パートナーシップ強化</li> </ul>	<p>事業継続の基盤</p>	<p>5. たゆまぬ技術革新と鹿島品質へのこだわり</p>
<p>6</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>労働安全の確保</li> <li>ダイバーシティ</li> </ul>		<p>6. 人とパートナーシップを重視したものづくり</p>
<p>7</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>公正な事業慣行</li> <li>コンプライアンス</li> </ul>		<p>7. 企業倫理の実践</p>

鹿島は、これまで培った経験と新たな技術を融合させ、新たなニーズに応えるとともに、住みやすさ・働きやすさ・ウェルネスなどの機能の追求により、建物・インフラの構築、まちづくり・産業基盤整備の分野において先進的な価値を提案します。

鹿島は、建物・インフラの長寿命化をはじめ、改修・維持更新分野における技術開発を推進し、将来にわたり安心して使い続けられる優良な社会インフラの整備を担います。

鹿島は、災害に強い建物・インフラの建設や技術開発、発災時の迅速な復旧・復興のためのサービスを提供します。気候変動による影響も踏まえ、防災技術の高度化に努め、安心して暮らせる安全な社会を追求します。

鹿島は、工事中のCO<sub>2</sub>排出量の削減、省エネ技術の開発や再生可能エネルギー施設の整備、グリーンビルディングの開発やエネルギーの効率的なマネジメントなどを通じて、低炭素社会への移行に積極的に貢献します。また、「鹿島環境ビジョン:トリプルZero2050」に基づき、資源循環・自然共生にも取り組みます。

鹿島は、技術開発による生産性向上と安全性向上により持続可能な次世代の建設システムを構築します。また、建物・インフラをお客様に自信をもってお引き渡しするため、品質検査・保証の仕組みの不断の改善を図り、安心して建物・インフラや環境を利用いただくための品質を追求します。

鹿島は、建設現場の働き方改革、担い手確保の推進と、人材の確保・育成、様々な人が活躍できる魅力ある就労環境の整備を進めます。事業に係るパートナーとの価値共創と、外部との連携を活用したイノベーションの推進に取り組みます。

鹿島は、コンプライアンスの徹底とリスク管理のための施策を通じて、公正で誠実な企業活動を推進します。グループの役員・社員一人ひとりが高い倫理感をもって行動するとともに、サプライチェーン全体を通じた取り組みにより、お客様と社会からの信頼向上に努めます。

## 「国連グローバル・コンパクト」に参加

鹿島は、国際連合が提唱する「国連グローバル・コンパクト」に署名し、2019年3月7日付で参加企業として登録されました。

国連グローバル・コンパクトは、各企業・団体が責任ある創造的なリーダーシップを発揮することによって、社会の良き一員として行動し、持続可能な成長を実現するための枠組み作りに参加する自発的な取り組みです。

### 国連グローバル・コンパクトの10原則

人権	原則1：人権擁護の支持と尊重 原則2：人権侵害への非加担
労働	原則3：結社の自由と団体交渉権の承認 原則4：強制労働の排除 原則5：児童労働の実効的な廃止 原則6：雇用と職業の差別撤廃
環境	原則7：環境問題の予防的アプローチ 原則8：環境に対する責任のイニシアティブ 原則9：環境にやさしい技術の開発と普及
腐敗防止	原則10：強要や贈賄を含みあらゆる形態の腐敗防止の取り組み

鹿島は、「社業の発展を通じて社会に貢献する」ことを経営理念に掲げています。「人権」「労働」「環境」「腐敗防止」の4分野からなる国連グローバル・コンパクトの10原則を支持し、経営理念のもと事業を通じた社会課題の解決に努めるとともに、SDGsへの取り組みを進めていきます。

**WE SUPPORT**

